



ひまわり通信

特定非営利活動法人
「NPO千の風」
ひまわり粟生発行 NO79
2021年12月

箕面市立病院の運営は 公立、直営で継続を

●2025年移転開業 どうなる箕面市立病院

2021年「箕面市立病院改革プラン」で「経営改善策の検討」を中心とした病院運営の見直しの方針が出されました。

そもそも市立病院会計は国からの特別交付金3000万円のみで、箕面市の一般会計からの繰り入れは、ほとんど行われていません。足らずは競艇事業から有利子の借金で運営してきました。

近隣他市では池田市が約10億、豊中は23億、独法化の吹田市でも8億円の財政が毎年繰り入れられています。

●国の医療制度改革「病床削減推進法」が根底に

国の医療制度改革、府の「地域医療構想」などにより、医療費削減などを理由に公立病院の統廃合、病床削減がすすめられています。2021年5月国会で自民・公明政権が、病床を減らした自治体に補助金を支給する「病床削減推進法」の可決を強行しました。これには自民、公明、維新、国民民主が賛成しました。

これを理由に箕面市立病院でも、2025年、北急延伸地船場地区（COM1号館跡地）への移転、建替にあたり「運営主体」「規模（病床削減）」などの見直しを行おうとしています。すでに「産婦人科、耳鼻咽喉科は外来のみにし、入院はなくす」「リハビリ病床50床をなくす」など議論がすすめられています。

●コロナ禍のもと病床の確保、充実こそが重要

2年に及ぶコロナ禍のもと病床の確保、充実は今後ますます重要となるなか、国、府、市が進める「病床削減推進法」は逆行するものです。

●市民の生命と健康を守る「砦」としての 箕面市立病院は「市立病院のままで」

これまで箕面市立病院は、地域医療の中核を担い、リハビリテーションセンター、箕面市医療保健センター、豊能こども急病センターなどを含め、市民の生命の「砦」としての役割を担ってきました。私たち市民が安心して診てもらえる市立病院として存続してほしいと願うばかりです。

ひまわり日記

ある日の「ひまわり」★



11月22日(月)朝から雨の降る中、利用者さんが三々五々来られました。



Aチーム

ボケとツッコミの会話が、横で聞いていても飽きません。11月からはボケ1・ツッコミ2で、さらにパワーアップ、ボケは気楽なものです。2枚看板のツッコミが来ても、どこ吹く風。3人の姦しい話題に唯一の男性、南さんは聞かえているのかいなかどこまでも紳士的です。



Bチーム
いつも賑やかな
話題で盛り上が
っています。

今日の話は19日の皆既月食です。140年振りの皆既月食を見るため早めに夕食を食べて見ていたという山田さん。「ほんとうに素敵だったわ。この感動を分かち合える人がそばにいないのが残念」どこまでもロマンチストな山田さんでした。



Cチーム

ああでもない、こうでもない、メンバーそれぞれ十分1人立ちできる力量なのに、なぜか、未だに「麻雀初心者教室」というチーム名を変えないまま、時にはやさしい講師の先生に教えを請い楽しんでいきます。